

第十八回

浜松市芸術祭演劇部門

と き 昭和四十七年十月十九日(日)

と ころ 浜松市市民会館

主 催 浜松市教育委員会

上 演 時 間

-
- ◎ 12:15 ~ 12:40 「悪 党」 劇団だるま
- ◎ 13:00 ~ 13:45 「息 子」 劇団いづみ
- ◎ 14:05 ~ 14:40 「財産没収」 抒情の前線
- ◎ 15:00 ~ 15:50 「麦踏み」 浜松放送劇団
- ◎ 16:10 ~ 16:40 「夜」 劇団からっかせ
- ◎ 17:00 ~ 17:50 「ある死神の話」 劇団季節
- ◎ 18:10 ~ 19:30 「マッチ売りの少女」
演劇サークルあし
-

悪党

劇団だるま

アントン・チエーホフ作
下村 正夫 訳

舞台監督……………竹内 邦夫
演出……………古賀 昭隆
衣裳……………石黒ヒロ子
照明……………鈴木 則子
舞台装置……………劇団だるま

場所 予審判事チリイの調室
時 早春夕刻

登場人物

●予審判事 カピートン・イワーヌイッチ・チリイ 杉浦 和彦
●農民 デニス・グリフ 堀田 英夫
●憲兵 セミヨーン 岩崎竜太郎

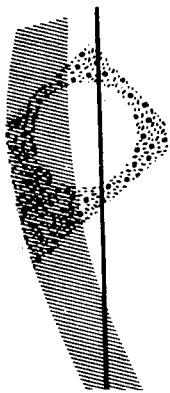
予審判事チリイの取調室に一人の農民が連行されて来た。

熊のようにどうも猛な様姿と濃い眉毛の下に辛くも見えている眼とは、気難かしげな粗野な表情を帯びている。

彼、デニスは、線路の留金を抜き取り、魚探りの網の錘を作っていたのである。

判事チリイは、過日の列車転ぶくは、デニスの仕業と断定する。

様姿とはうらはらに、勤言実直な農民は判事に事実を訴えるが……………



息子

作者 小山内 薫

静岡県演劇コンクール参加作品

静岡県天竜市二俣町

劇団いづみ

キャスト

火の番の老爺(七十才) 安間 正男
金次郎(二十七才) 鈴木 省
捕吏(三十才位) 木村 隆

スタッフ

演出 高橋 賢次
装置 都鳥 和夫
照明 安間 省三
効果 野中多恵子
衣裳 鈴木 和子
美術 浅野 文代
舞台監督 山本 和雄

あらすじ

江戸の末期、雪がさかんに降る、夜半すぎの火の番小屋に淋しく老爺がひとり。そこへ九年前に罪をおかして家出した息子が入って来る。

老爺は息子とは知らず弁当とタバコをめぐんでやり、他人の様に話し合っているが、そこに、お尋ね者を追って捕手が入って来る。……………

所要時間 五〇分



” JOJO NO ZENSEN ”

静岡県演劇コンクール参加作品

Tennessee Williams;

”This Property Is Condemned”

(STAFF)

SEISAKU	Group ”JOJO NO ZENSEN”
ENSHUTSU	Eiji Matsuoka
BUTAI KANTOKU	Hiroki Inuzuka
KUKAN SEKKEI	Seiji Koike,
	Fumihiro Ikeya,
	Sino Kimpara
	Nobuko Suzuki
KOKA	Fumihiro Ikeya
	Hiroki Inuzuka
ONGAKU (Sakkyoku)	Kazuyuki Saito
	(Henkyoku) Seiya Watanabe
ISHO	Yukiko Hirao
	Kazumi Kinumura
SEISAKU KYORYOKU	Yoshikazu Makita
	Atsuko Matsuoka
	Hideo Yamashita
	Makoto Tsugiki
	Shoji Osumi
	Y. Hinaiji H. Kamijima

(CHARACTERS)

Willie, a young girl.	Noriko Yamashita
Tom a bor	Toshiaki Sato

追憶と憧憬、それは不断に甘美であり続ける

一九三〇年代。米国南部、ミシシッピ州の
或る鉄道街——それは、既に廃止となつてしま
った操車場や、雨風に晒されて赤錆びたレール、
壊れかけた土手、等に往時を偲ばせている。そ
の人影も絶え絶えとなつた土手のレールの上を、
一人の少女が歩いてくる——

そして、彼女は再びもどって行く。追憶と憧
憬の中へ——

線路の向こうの黄色い大きな廃家——それは、
酒と女と薔薇に明け暮れた日々の残骸である。
「財産没収」という大札立てられてしまったそ
の家には、家族が、或いは死に、或いは四散し
てしまった今もなお、一人の少女が潜み暮して
いた。

少女ウィリー

それが、この一幕の主人公なのである。



麦踏み

北条 秀司 作

静岡県演劇コンクール参加作品

浜松放送劇団

スタッフ

演出 村松 勇
 舞台監督 杉山 勝義
 装置 小栗 雅
 効果 鈴木せつ子
 衣裳 松浦 光代
 // 富田 洋子
 照明 中村 昂平

キャスト

はる 斉藤 千春
 あき 水村 春江
 ふゆ子 鈴木多見子

巡査 岡本 和孝
 小使い 石橋 純一
 健一 坂本 薫
 老婆 鈴木せつ子

この劇は、麦踏みの季節、東北地方の農村の人々の愛すべき風俗描写として描かれている。渡り鳥の声、乗合馬車のラッパの音が春を待つ田舎の風景に抒情を添え、登場する善意な人達が、お互いに温め合う素朴な人情の世界が、自然の中にとけこむような舞台を作っている。現代の我々の生活の中に忘れられてしまった人情／他人への思いやり、温かな善人の世界を、この舞台に見つけていただけたら幸いである。

「はる」は婚期を過ぎてしまっているが、自分を養女として育ててくれた、お母さんの（死に水をとらねば）と、病気の母の看病をしている。妹のあきやふゆ子には、すでに結婚の約束を

した人がいるが、姉への遠慮から言い出せないでいる娘達である。或る日ふゆ子が、はるにはもう決まった恋人がいるという、うわさを聞いて来る。それを知った（はる）は、妹達二人の気持を察して、言う通りに承諾すれば、あきもふゆ子も、姉の私に気がねなく嫁に行けるし、役場の小使いさんと巡査にたのんで、一芝居うつことにした。そしてあきは、迎えに来た健一と飛びたつように東京へ出てゆく。別れの時、あきには、周りの人達の情が痛い程に胸をしめつけてきて、拭いても涙があふれてくる。表畑で馬車を見送る（はる）の胸中は、妹の幸せを願う心と、言葉には出せない寂しさで一杯であった。



劇団員募集中!! 入団希望の方は

丸市食品(TEL 五四一八一五一)まで

夜

劇団からっかせ

作・黒沢参吉
演出・坂田真生
同助手・蒔田史
舞台美術・劇団からっかせ舞台美術部
舞台監督・みやした公平

キャスト

婦長・五木りえ
看護婦・島崎彩子

—— 作品について ——

人間の生命（いのち）は地球より重い
深夜の病室……労働災害による重症患者を
看とりながら、やはり二年前に労災で、それも

—— からっかせ・この頃 ——

＊ この芸術祭の一週間前、十一月八・九・
十日に第六回本公演として勝山俊介・作深沢大
助・演出「分裂気質」三幕八場に取り組みまし

た。「夜」と共に静岡県芸術祭参加作品です。
昨年に続き芸術祭賞を受賞できるかどうか戦々
恐々です。

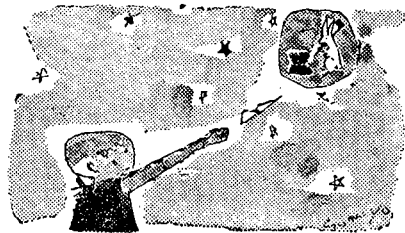
＊ 「夜」の後は、同じ黒沢参吉・作の「と
ろいめらい」に取り組みます。この作品は朝日
ジャーナルにも取り上げられ、京浜共同劇団を
はじめ全国の劇団で上演されています。……
ぜんそくに喘ぐ母親を持つ男の子の復讐やいか
に。公害の問題を新しいタッチで描きます。
みやした公平の初演出。来春二月下旬の公演予
定。

＊ 第九期研究生が発足しました。和気アイ
アイ座学に、ケイコに張切っています。研究生
は劇団のいぶき、あなたもどうぞ加わって下さ
い。

ご連絡は

劇団からっかせ事務局

浜松市中島町二四一九 TEL(六三)六〇一一



処置の手おくれで死んでしまった夫のことを看
護婦は思い起す。——あけがた、夫の夢を見る
ことがあります。無口な人でしたけど、夢の中
ではいっそうものを言わない。象みたいに細い
目だけが笑っているんです。作業服のままかけ
つけた病院で、四昼夜このディスプレイターを
動かし続けてくれた人たち、真実をおそれて吊
詞も読ませてくれない会社の葬儀に、泣きなが
ら抗議してくれた人たち……。ひとつの生命
（いのち）をめぐる中でこの中にある社会の問題
安保体制下の労働強化、病院や医病制度のこと
に目を向ける。

からっかせ小劇場で好評の作品!!

ある死神の話

著者 内山英夫

季節

キャスト

死神 A 外崎 武之

B 大沢由美子

C 増田 和徳

学生 山崎美恵子

スタッフ

演出 外崎 武之

演出助手 大沢由美子

舞台監督 増田 和徳

装置 増田 和徳

照明 野見山貴志

古橋 一成

黒木 昭正
和田 一枝

小塚ますみ

衣裳 山崎美恵子

衣裳製作 鈴木 秀子

団友 中村よし子

浅野 立夫

誰もが一生に一度は死にたい／と思う時があるでしょう。

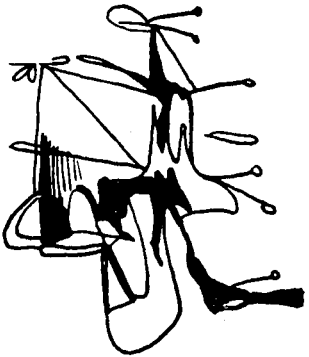
そう……この劇は、人間特異の姿を死の世界に招く「ある死神の話」なのです。

あなたは、いつかテストの点数を気にして……
そしてあの人は恋人にふられて……心のどこかに「死」を考えたことがありますね。

そんな時無限に広がる美しい未知をも忘れさせ死の世界への道案内をして下さる死神……しかし、そんな死神の心にも革命の表われが

少なからず訪れているのです。

「死神たちとある日突然、自分の知らない間に死んでしまった学生とのあいだにかわされる会話の中に考えさせられるものがあります。」



マッチ売りの少女

演劇サークルあし

キャスト

初老の男……………乾 章一
その妻……………古橋 雅子
女……………今村 咲
その弟……………菅原 忠則

スタッフ

装 置……………乃一章一
照 明……………佐々木朝子
効 果……………今村 咲
衣 裳……………古橋 雅子
小道具……………菅原 忠則

ものがたり

夜のお茶の時間、善良、無害な市民である事を誇りとする老夫婦を訪れる者があった。「私、あなた方の娘です。」と名乗る女とその弟であった。

「私たちには男の子はいなかった。それに娘は電車にひかれて死んだのです。」と戸惑い否定する夫婦。一方、弟がビスケットは誰の分だったので。お前の為に今夜誰が飢えなくてはいけないのです。」と、何故か女は卑屈に絶叫するのであった。